

東京小間物商報



第六卷

事務所移轉廣告

弊組合事務所の儀追々事務多端の爲め大に狹隘を感じ候よ、今般

日本橋區藥研堀町四十五番地

移轉仕候間組合事務及び小間物商報に關係の庶務共爾來同處へ御來車又は御發信被下度此段謹告候也

但小間物商報編輯上に係る御照會若くは御投書の儀ハ矢張従前の通り淺草區須賀町十九番地西森武城宛に御書被下度候
明治三十年九月五日

東京小間物商組合

事務所

發行所

雜報

●長崎商會商品陳列館の閉館 ●長崎商會所管の商品陳列館は、時都合により閉鎖したりしが

【省料】一五號百字廿二字路一三三回迄一圓拾五錢四回以上六回迄一圓拾七回以上七回以上拾錢

外國より輸入の品並の準備も略々整頓したるを以て去る日より正式の開館して諸人の縦覧を許す事とはなれり此の間に關係ある各省の東京商業會館所員、新聞記者等は同館の招待に感じて館内に赴き休息中委任の箕浦商會局長は挨拶旁々同館の來歴及び現況に就て講義する處あり今は大いに之を擴張して實業の發達、貿易の擴張上に便宜を與へんとするの決心なれば諸君の協力によりて成るべく出品を増加し且つ縦覧者を多くせんとすることを期す也

所風を脱し場所の如き農商務省内に隔離し四民階級の地に設けたり考へなれども今日の處別に適當の箇所なければ此儘に爲し置きたるも例へて見張人の如き厳正なる官の制服を去りて商人風と爲し出品に就ても甚きでは願はずし農商務省以之を許可せりたるも今後は出品を申込みば之を承認せよ云々如き所謂通常のものに改正し縦覧者に對して輸入場料は一切取り除る事となしたりとの大勢を總括せられし由なるが今之改正に就き關係の大體を記さんには本館正門を入れば即ち國産部の陳列區なり正面藤原吉氏の鑄製大鐘を中央に據り第一段より口までは花袋通類を陳列し二階に至り左折して農産山林樂山機具等を陳列す之を出れば中央は工業陳列區にして靴織子を初め美麗なる織物あり夫より西洋婦人室あり興行三間市四間の陳列室にして悉く日本志所を以て成る室は格子天井にして四季草花を張付け甚だ華麗雲掛等も亦悉く草花島の刺繍にて何れも京都川島氏の出品家の設計及び工作事は、林義典氏より寄木張は杉田幸五郎氏、藤原卓椅子懸掛匠等なり小橋氏、掛掛は京都節田七氏等の作にして大いに人目を惹けり同所の左側は陶器、漆器、手製器、牙彫物、提籠、樂器、筆、墨、紙、文具、草細工、顔料、磁子、時計、美術書田、香水、香具、諸雜貨、玩具具、刷毛、花道等を陳列す夫より二階は院は玉置館等を香麗に陳列せり是より三階は外國產

Table with columns for country names and exchange rates. Includes entries for England, Germany, France, etc., with rates like 100 Yen = 10000 Yen and 100 Yen = 100 Yen.

東京小間物商報編輯部謹啓

博覽會(幾回も之)

●巴里博覽會出品注意書

を開設し幾多の標識を積み幾多の効を収めたる土地なり斯る土地に於ける大博覽會に對し日本が戦後の地位に實に責任を示さんとすを注意し一標の出品を以て可なり然れども茲に一の注意書つべきことあり是は今回の博覽會に於て其陳列方法の從來の如くなりず製品に伴ふ標識は之を出品の傍らに陳列せんとするにあらざるべし是に對しての博覽會に於て得たる對策の一にして一見製造の順序を知らしめ各國の長所を探らしんとする巧識なる手段なりと雖も日本は直ちに此企圖に應ずべからざるものなり試みに思へ我が邦に於て今日日製能力を輝かせるの多き各種工業はた米穀米の製造を採り若くは汝れの新機を創りたる機械を用ひしつゝあるに非らず此種概を採へて其本場に出出すと是實に愚の甚しきものたるのみならず亦所期我の内兜を見送らざるものなり又美術工藝品等名を汝れに比するに器械を使用するおとなく手藝に依るのもの多きを以て敢て偽等を示すべきものなれば我は只其製品のみに出陳するの方針を取らざるべからざるなり而して偽は注意すべきは今回の出品者が自己將來の利益を計ると同時に時勢に對し國家的觀念を其處理に對し出品を爲さざる可らざる事なきを以て是より斯る各種の出品者に對し出品の方針と希望を述べん

先づ美術品に於て云へば政府が買上出品せんとするものは先づ從來の博覽會等に於て標牌を得たる以上の入念に依頼し而して其内より鑑賞の上採用す可らぬ今日に於て確定したるの方針ならねども大抵此意を程度とすべし然れども是にての後進を踏襲するの途なきを以て從來の博覽會に於て脚牌以下褒賞一等の地位にあるもの通し二三流術家は政府府第の内に於て適當に陳列して相應の補助をみる可らず亦承認し方針ならねども是に副總裁も既し副總裁も實し方針となれば何れ審査責任命後の方針に依るならん

次に美術工藝品は所謂眞の美術を應用したる工藝品にして而も殊異に美術にかかれ工藝品とし將來の利益にも著眼せざるべから所屬天下の品と云ふを目的とせずして將來其標の注文らばに之を以て得べざる製作者を要すべし茲に美術品と美術工藝品の最も注意すべし是に對しては技術のみならず心算をも併用すをとならざるべし

次に技術のみに依り一兩の理想を交ふるなくんば所謂眞の技術にして絶えて妙味なく時態なくすべからず是は固より普通の請願なりと雖も近來の美術は東角只だ技術に依りて造りたるもの多く理想と技術を能く調合し而も自然に成りたるもの少なければ此點に於て大に注意の要あり茲に方針に斯の如しにして各出品者が今日出品を製造の着手なり製造の着手には考案を要す此考案に於て拙らんなか假令如何なる技藝を有するも到底精巧の出品をなす能はざれば悪次額滿其底に此事を忘れず以て大に其考案を造らざるべからざるなり

次に普通工藝品の出品なり此品類に屬する出品に對しては其先出品者の資格と相合ば販賣をなれば二三年の賣買高一萬圓以上製造家なれば二千金圓以上を以て賣格あるものとす製作者は其目的を以て定むるべきは唯自己の利益に在るものなれば博覽會後只留する所の出品は其標依り偽等が注文を及したる時に於て前の出品と同し製品を出し以て彼の商標に應ずるべし

如きとあらば曾に博覽會を目の一標の商標を視したりとの説を免る能はざるのみならず出品者の責任として亦實に國家の耻辱なり而して其商標を定め幾種以上となしたるは假令は同じ物と見ても其旨目のものあり製目のもあり注文に依りて如何なる種類をも製し得べしと云ふを犯すしめんがために外ならずと云々

煉 定價 共口瓶入

小瓶 四錢	新大 十三錢
中瓶 六錢	極大 廿錢
大瓶 八錢	別大 卅五錢

定價

小瓶 四錢
中瓶 六錢
大瓶 八錢

堂 眞 盛
粉 白 王 氏

祖元いろ

定價

小瓶 四錢
大瓶 八錢

水 花 王
白 粉

本舖
特約大販賣店

東京日本橋區
橋山町二丁目
電話號碼
(四十二番花)

東京小間物卸商組合中
脇田盛眞堂
轉居廣告

今般藥研所四十五番地東京小間物卸商組合事務室内(轉居所) 九月三日 前田定次郎

荒野貞太郎

各大大醫 善 天下無 安永舍 願上候

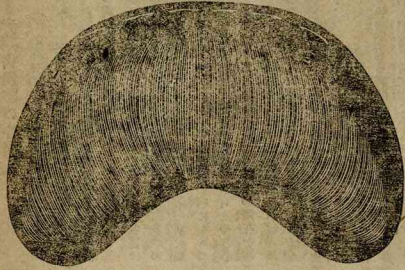
弊舎儀業務多忙ノ爲各地
方直接ノ取引致兼候ニ付
御注文ノ儀ハ東京特約
販賣店又ハ各地代理
店ヘ向ケ御便宜御
取引ノ程偏ニ奉

安永舍

東京市牛込區湯場町
一玉石輪製造元

小生儀 諸君ノ御意志ヲ御引立ニ敬リ通テ油
町見ノ石輪本舖清水開化堂商店ニ取引可シ
在候今同候其他ノ都合ニ由リ同店ノ間ニ
限店致ノ候付ハ以來小生ノ同店ノ間ニ
關係無之候此深川諸君ノ取極也
三十年八月 日

形けまの製新良改大



右之外御注文に應じ形材にても製造仕付何卒
立返候間御品切の取扱年中各地方に於て御注文
東京日本橋區本町三丁目吉備屋
日本橋區本町三丁目三橋製菓部
小間物問屋本舖三橋兜喜次郎
別領白髮

自慢形 音羽形
ぢまん入り 新東京形
としん入り 新東京形
縮緬各色編 雙翼製御入
福助形 麝香形
さくら形 花玉形
としん入り 新橋形
としん入り 一乃字形
柳橋形

右特約販賣店に續々御用向之程偏に奉希上候
今様東京流行と云ふん入り形製造廣告

燈具入別製 尾上第五郎好

同同同同同同同同同同同同
同同同同同同同同同同同同
同同同同同同同同同同同同

同同同同同同同同同同同同
同同同同同同同同同同同同

同同同同同同同同同同同同
同同同同同同同同同同同同

同同同同同同同同同同同同
同同同同同同同同同同同同

同同同同同同同同同同同同
同同同同同同同同同同同同

（煉製）大博士士粉（粉狀）



●新製粉狀大博士票告
●藥製
●衛生

定價
煉製入 三ヶ月用 金貳拾錢
煉製入 一ヶ月用 金拾錢
煉製入 半ヶ月用 金五錢

東京本町四丁目 廣澤間屋松本伊兵衛

●東京市内特別大販賣所
電話本局九百三十九番

東京橋區本町三丁目 松澤八右衛門
牛込區築土八橋前 大木合名會社
神田區鍛冶町大造 圓城南右衛門
日本橋區本町三丁目 高木治兵衛
同區池の境町 守尾球平
下谷區池の境町 佐田支兵衛
日本橋區本町三丁目 中田兼太郎
京橋區銀坐一丁目 杉村鐵次
同本橋區三丁目 小間物問屋
●買物へ全國到處にあり

●三定價 三十錢、廿五錢、十錢、六錢

きかみはりね橋三
貴孃紳士の香料

●大瓶價六拾五錢 ●小瓶價拾五錢
用新小瓶價五拾五錢
用新大瓶價五拾五錢

●三定價 三十錢、廿五錢、十錢、六錢
●買物へ全國到處にあり

●中瓶共口定價 改正金十五錢

●花の煙

東京市内に評判のよき
ねりかろい花の煙

●大瓶 松澤八右衛門
●中瓶 松澤八右衛門
●小瓶 松澤八右衛門

●改正定價表

●大瓶價 一円七角
●中瓶價 一円五角
●小瓶價 一円三角

●買物へ全國到處にあり

廿五年紀念博覽會受賞牌

赤痢病預防の心得

大日本五の五此程生全圖各省各府赤痢病の患に印刷
日本に於て此病生全圖各省各府赤痢病の患に印刷
大日本五の五此程生全圖各省各府赤痢病の患に印刷

赤痢病の患に印刷
大日本五の五此程生全圖各省各府赤痢病の患に印刷
大日本五の五此程生全圖各省各府赤痢病の患に印刷

赤痢病の患に印刷
大日本五の五此程生全圖各省各府赤痢病の患に印刷
大日本五の五此程生全圖各省各府赤痢病の患に印刷

赤痢病の患に印刷
大日本五の五此程生全圖各省各府赤痢病の患に印刷
大日本五の五此程生全圖各省各府赤痢病の患に印刷

赤痢病の患に印刷
大日本五の五此程生全圖各省各府赤痢病の患に印刷
大日本五の五此程生全圖各省各府赤痢病の患に印刷

なり然るに人生のために故に病に罹らざらんことを願ふは此
種子は必ず消化器の下に於て發生するものにして
て彼が其所に達するには必ず口より入らざらんことを願ふは
一事なり唯口より入らざらんことを願ふは一事なり唯口より入ら
ず空気を亦も皮膚より入らざらんことを願ふは一事なり唯口より入
らざらんことを願ふは一事なり唯口より入らざらんことを願ふは
べし是故に口より此種子を入らざらんことを願ふは一事なり唯口より入
らざらんことを願ふは一事なり唯口より入らざらんことを願ふは
却て此種子を口より体内に入らざらんことを願ふは一事なり唯口より入
らざらんことを願ふは一事なり唯口より入らざらんことを願ふは
ふに實に罪難にして行ひ易し

- (一) 飲料水は必ず一回煮沸したるものを用ふべし
(二) 食物は必ず清潔なるものを食ふべし
(三) 食物は必ず清潔なるものを食ふべし
(四) 食物は必ず清潔なるものを食ふべし
(五) 食物は必ず清潔なるものを食ふべし

赤痢病の患に印刷
大日本五の五此程生全圖各省各府赤痢病の患に印刷
大日本五の五此程生全圖各省各府赤痢病の患に印刷

- (七) 小兒等を戒めて水浴を爲さざらんことを願ふは一事なり
水浴者等は小兒等が夏時に於ける遊戯中頗る
有益の者たり然れども赤痢病の患に罹り
ては往々にして河水中に病菌の洗れ来ること
ありは往々にして河水中に病菌の洗れ来ること
ありは往々にして河水中に病菌の洗れ来ること
ありは往々にして河水中に病菌の洗れ来ること

- (八) 便溺も亦赤痢病を患ふは赤痢病の
原因となることなれば人々の習性によりて一
掃ならざれば一日若くは二日に一回の便通
あるやう心掛くべし
(九) 床下家等の汚濁に注意すべし
戸の古きを取り替へし
やう注意すること
(十) 糞池には時々消毒薬を投じて
之を液取清潔になしめ
法にはあらざらん一家の衛生

赤痢病の患に印刷
大日本五の五此程生全圖各省各府赤痢病の患に印刷
大日本五の五此程生全圖各省各府赤痢病の患に印刷

赤痢病の患に印刷
大日本五の五此程生全圖各省各府赤痢病の患に印刷
大日本五の五此程生全圖各省各府赤痢病の患に印刷

赤痢病の患に印刷
大日本五の五此程生全圖各省各府赤痢病の患に印刷
大日本五の五此程生全圖各省各府赤痢病の患に印刷

赤痢病の患に印刷
大日本五の五此程生全圖各省各府赤痢病の患に印刷
大日本五の五此程生全圖各省各府赤痢病の患に印刷

又古まへ

▲天保年間觸書の寫し (承前) (天保十三年七月廿四日)

一異國艦來の節二念付申言文政入改被仰出候然當時軍部御改正にて享保寛政の修政事...

右之通可被相觸候

先聲而よろし令船長へ渡來致し通觸の儀相願儀得共取用候節に付其旨申渡先與へ置候...

人數等差配先見分のもの差出爲と様子相組置よくろしや船に無相連相聞候は、籠々申論なる花...

近世奇蹟考 (抄録) 助六狂言考

助六狂言考 狂言中根本一相是一代肥と見當證書屬矣、延享中版本一相是二代肥と見...

Advertisement for 'The Flower of the East' (東の花) by 'Shinsei' (新成) shop. Includes illustrations of products like 'Jintan' (handkerchiefs) and 'Tsumugi' (silk), and text about 'Social Progress' and 'New Fashion Goods'.

Advertisement for 'Shinsei' (新成) shop, featuring 'Amber Incense' (寶香) and 'Amber Toilet Paper' (寶香). Text describes the quality and origin of the products.

事とい、論文論の説な、影の意内容は、「國房」

留國一の影蔵しの文に、影の意内容は、「國房」... 羽、日本に朝比奈宗祝、女郎實に無休あり、十有... 一人、無の休に云ふは、元祿中の習あり、十... 十と云ふは、深見千左衛門目休が事なるべし、此... 人語はさく、深見千左衛門目休が事なるべし、此... 名は影の無休を翻用し、仕業は深見千左衛門入... 道目休が事をとり用ひ、合して以て、影の意休と... したるならぬ、又「江戸鹿子」を見るに、北八... 町細腰帶滑左衛門と云ふ者、朝顔といふ扇形を買... 其味の名品なるのるに、朝顔せん平といふ名は... ば、まうけたるなり、其後正徳六年正月、朝町中... 村屋に於いて、式例和會我の二番目に、栴建ふ... たびかか狂言をす、これを和助六と云ふ、助六... 六の扱、ハツバ細腰帶、ハツ印籠、みな其現流行... の物なり、明舞妓女の装束、歌舞夜狂言の古圖を... 見るに、若衆形の鹿子などには、すべて若の意は... さをす「江戸鹿子」に云ふ、むかひは美意に被羅... を身にかけては、若の意をばはまきにして、い... ろの装をなす云、助六がはらまきも、其重... 風なるべし（かゝるふたしなまきを、まかしたづ... ぬるも、人わらひなることにはあれど、わらひの... のかたりにさし、しるしかきつ）

●鹿の子餅 (兼前) 作者不詳

鹿の子餅... 鹿の子餅の傳は、非禮の二八兩國橋を渡... 竹かたつた鹿、橋の中ははと所、そりやぬいた... ど大鹿とされど、鹿が來り、つて鹿へては戻ら... れまじ、まづずるけたたけで済ぬ、かとい... したる、貴様も鹿ははまじよつた、おれもはよと... 七國までひつからげ、鹿鬚はた、刀ははていとかど... しやし、鹿すりに身拵らへ、ウア貴様はよししか... 「ようござん、よく早く大橋へ廻りませう」

●坐頭

●力辨

力辨... 釋迦ヶ嶽に仁王堂と来ては、近年にない大木、札... を買て運入れぬ、木匠の込合しかたなれば... 裏へ廻り廻をより、犬のやうに這て入かつた... 内へ居る世話をし見つけ、コッパをから... 運入と云ふことやない、あまきを取てかして... され得運入らず、しげらく工夫して今度ば尻から... 這入かいつた處、又内の世話をさ見付、コッパを... ころから出る處じやない、帯をつかんで引すりこ... きた

●十字

十字... 海みにさても寄か、るの観のつね、そして無心... いふまじのしなや、偶々の事なりや生鬼降にも... ならず、のみ込だとの致つ合ひ、して又いふれ... はだど入るとさけば、それ顔をあはせては云はれ... んんといふに、そんならかれが香中、指かき... たまへど、大肌ぬきに成て香中をさし向れば、そ... んや香きさんすよ、まづ一の字をうたふしに、し... じりかりとなく、よし合点だとなつた處、十... 十字の墨の筆ちりげの所、指をつけると、容身... をひいて、ワットをこはは灸がある

●熊棋

熊棋... 熊棋といふもの、人のさすにさして、されぬ事ハ... なひはづ、さして見やと駒をむしやならべ... なたらにさし、しどらくよども、いかぢりぢか... くなつた、お手に何「王が二まい、ホ、ハ、イやな... の物」

(未完)

東京帽子製造株式會社... 帝國製帽株式會社製... 榮店製造帽子香品... 謹告... 東京日本橋區大馬路... 昭會商店

化粧品 原料 芳香藥品販賣... 目錄用之方、郵券御送り被下候次第、通送云... 東京市日本橋區本石町四丁目 大坂屋号

化粧品之部 松澤常吉 芳香藥種問屋... 日本香水各種 佛國式 日本ムスメ香水 佛國英國製造香水 人造薔薇麝香 石鹼 内外各國化粧用石鹼各種販賣 大坂屋号 松澤化粧品部

餘興

▲殘景 名居 田中 豊真
 桐の葉の落をむれどもなかに、
 女はあつさ今宵なまの光も照り渡る
 月の光はあきらかにあれども
 疾の葉に秋の初風吹きながら
 女はもあつさを招きつるかな

▲陸更調 全
 にはどりの聲にほめて我話の
 松にほらめりる月を見しか
 にはどりの唯一聲に月かけの
 有明の月もかほらみて山寺のなく
 かねよりよはてしなく

●送歌いろは頭つけ俳句

●送歌いろは頭つけ俳句
 蚤に今草を分けても 東京 淺草 遊人
 帯きつと縋て登るや秋の山
 草の葉のゆれて湧出る清水哉
 山道の秋らし語り出せる音
 負るほど相手よ去けり辻角力
 けふ入梅のあくと思へ草の家
 敷くみた事はかくして夏生敷
 小荷等のほめる旦那菊の花
 江の島の羽生しまり秋立立
 手料理に友呼ふ后の拾ひな
 揚る靴どふるす靴のあり青風
 道落す袋や露に見かくれ
 桐一葉見や書生す手紙かな
 百合さや南へ長きなれ山
 目の上につかへる山や毛つ
 見直せつへさく見の虫成
 仕舞ても響る聲する花火哉
 繪に青花牡丹のやうな牡丹哉
 日も男たなまて照る花
 戻らには如何よ捨て飛た川
 蟬なくや砂を汲たる 桔槌
 稲を吹く風はつめした 昔の花

在 京 名古屋遠東
 のれ先年京報地方に遊びしとき彼の西京者

の着倒れ大阪者の喧ひ倒れ物喰ながら送便所
 と稱ねしには實に一帯を吃せしなり而して今
 度東京に來り商用かな、諸所を見物せしに
 東京にも亦いろいろの原ある事を見物し依
 ていつもながら各名産品ものを「スカタン」
 「オキアアセ」と題目を受け所りしは計に三
 府の題目を並べ立し大津辯よしと一覽覽に
 入申ひ

▲三府惡口大津辯よし
 京の着倒れは。喰ふ物も喰はず。地震電音や
 受けれども。あちらの側でも。鳴りわたる。大
 阪者の喧ひ倒れ。着る物もない。我慢して。物
 喰ひながらに雲隠とる。東京の名物は水車喧嘩
 がタタリ馬車の馬の驚。豪華で道市廣いけれ
 ども。餅や茶でなかなかなない。それ其
 等。圖をむさしと云と存やないか。

●口上茶番人物競

●口上茶番人物競
 是の會で某商店庶民階級の席上に於て素人連
 の權上に係る口上茶番の由にて今と今と樂記
 を得れば秋の夜長のふんばさみにもならんか
 ど茲に掲ぐる事と以しぬ
 其一 見者
 私しは是れ見者と申のでござりますから風先
 づ方折を申上せよ、エヘン、東西、今晩は
 様か斯様に茶番を演覽にか出でのでござります
 から見見來た(前北北)でござりますやう(と見物
 に反物半反)之を求めます時いろ(見ま
 したる)一番わねが宜しいやうで且は益(馬)なら
 うと存じまして一反買つて呉れると申します先左方
 で申すには夫は見本に今日日本未だ計りだから申
 まして申す(見)ない(出)のを断念(観)一
 わけて買ひましたが、併し半反の事ですから着物
 「鬼門」にはなりません仕立姿で身のまに
 成ります、コで私しが斯様に見物を持して居ます
 と稱れれば是へは今日を限になりませんラ
 見ますれば御見(相見)かど存じます(未完)

世界無二藥齒麗玉蘭 衛生

POWDER WETTES
 玉蘭
 生

目下武町小區橋本日市京東

製謹郎三吉屋勢伊

粉白水洋西物無毒
 洋法
 元々
 透明

特別製 五十錢
 八瓶廿錢
 小瓶十錢

賞分之内
 打付
 賞分

●全國一手發賣元
 東京山田花王堂
 田中花王堂

革煙草入類
 煙管筒類
 卷葉入銀貨入類
 袋物類
 手提鞆肩掛類
 藤大和屋
 小林藤兵衛

田中花王堂
 大約名姓
 (順ハロイ)

富田 尾野 徳野 野田 萬玉
 富田 尾野 徳野 野田 萬玉
 富田 尾野 徳野 野田 萬玉

本尾川 源木屋 善木金置

附麝香北
 製雲南麝香
 製雲南麝香

山田花王堂
 山田花王堂



改訂 別製

特別所記
東金橋山町三
進榮堂
一本採最上毛付合
小町分道
馬武支店

廣告

第四回內國勸業
博覽會褒賜
篠原武兵衛

塗櫛 一木櫛類一切製造御
一元結水引類製造御
一かじ類製造御

東京日本橋區橋本町三丁目十四番地
三島武支店

品質純良
ナレヲ以
テ廿五年
紀念博覽
會ニ於テ
褒狀拜受



東京日本橋區橋本町三丁目十四番地
同通橋町三丁目十四番地
同山崎町三丁目十四番地
同山崎町三丁目十四番地
同山崎町三丁目十四番地
同山崎町三丁目十四番地
同山崎町三丁目十四番地
同山崎町三丁目十四番地

標商錄登
定アリシロ口付 一供口角瓶入并九瓶入種々
價 金三十五錢 金四十錢 金六十錢
東京市之區西橋本町六番地 尾崎榮造
元祖 香水本舖 尾崎榮造
東京市橋本町三丁目十四番地 尾崎榮造



發賣元因 田部重兵衛
約特大販賣店
電話本局一四八〇

全氣善長 伏奉願候
御販

業專毛刷シラフ
造可仕候間御愛顧ニ付



美術ペンキ塗
書畫看板師
大勉強
工業舎廣瀬



本舖の特色
製造元 森川種善堂
丸見屋善兵衛

保徳永保之助
日本橋區橋本町六番地

顔の艶と白美にする妙劑
定價大瓶廿錢中瓶拾錢小瓶六錢



男女其顔の色を白くさつとせよ
不思議は三四日服用にて必成色の艶
日にやけるといふ顔のあれ
麗なき艶を現はし

本舖 東京市橋本町三丁目十四番地
和洋小間物店又ハ藥店
森下喜野

東京新聞

第六卷



今般東京小間物卸 商組合事務所を日 本橋區藥研堀町四 拾五番地へ移轉す

雜報



●**組省經濟近況** 米國組省に於ける經濟近況に
附し駐在領事より去月十日附の報告要領は左の如
く、米國不振の境地に陥りたる當國一般の商工
業も去る六月に至り益々其衰微を回復せんとす
るの望を生ぜり惟だ大統帥の改正を引續き其職
後には早晚景氣回復の時來るべし且世人の善く豫
想する所なりし先般米國臨時議會に提出せられた
る關稅案は實業者に於て頗る其苦痛を述べしめ且
●**當國關稅議會の一大病源たる貨物制度の缺陥**
現在大統帥が選舉戰爭の際既に改正を宣言主張せ
し所にして亦其改正は世人の望むを以て大統帥
の聲援に於けるが如くなるにも拘らず現政府に
於ては更に之に着手するの機運なきを以て一般の報
紙は更期の如く急に回復の機運なきを憂へる者少
からざるに關稅案は六月中に著々其歩を進め
終に本月七日を以て元老院を通過し最早議事
から六月下旬に大統帥は各地方に於て實業者の
催はせる公會に臨み政府は決して貨物制度改革
案を等間待するの意なき時機を逃しひ必す其
分に着手すべし旨を公言し附は過日關稅案の元老
院を通過するや否や政府は直に貨物制度調査委員
會設置案を臨時議會に提出するの準備を爲し大

統帥は同日三日本院に關する教書と議會に送付
する密なると云ふ右二件は何れも一般商工業界
に好望を興へたりしが尙ほ昨今に至る今春に於
ける當國小麥の作額は頗る豐饒なるを以て見
立られたるより益々前途の好望を來しし
●**關稅案は前記の如く本月七日を以て元老院を通過**
し且下附院に於て議決中なるが元老院
通過せる案に據りて本邦より當國に輸入する重
要品中生絲は從前如く無税輸入は一旦一封に附
き十仙づつ課税する修正案出たりし行は消滅し
て從前如く無税となり華糖は衆議院に於て頗
る重税を課せらるる筈なりしも是亦元老院に於て
無税となりしと相補はし（現行税率從價四五分）一
平方碼に附き一オンス三分以下三分一オンスの
品、本邦品は殆ど全く此範圍内に在りしにして練
製糖とするもの又は練糖にして練製せるものは一封に
附き二、五五十仙に課税するものは一封に附き三、
五五十仙に課税するものは一封に附き五、五五十仙
と爲す相補手段は（現行税率從價五割）最低税率
價六割にして相補の割合を以て課税し制糖を加た
る品は更に一平方碼に附き價二十五仙以下の品は
從價二割（一平方碼に附き價二割五分、十五仙以
下の品は一平方碼に附き十仙と從價從三割五分と
爲りし其他本邦より輸入するものは何れも多少の
増税を課せられたるに及ぶ及ぶの輸入に從事
する商人は前途重税を課せらるるを見込以て高
價を名目す多量の貨物を仕入れたる後稅率消滅
したるが故に損害を被りたる者少からず又相補類
の輸入と商人等は則關稅法の實行に先己に多量の
貨物を取寄せたりしが今後一年乃至二年に於ては
輸入するの必要な量を以て當分増税の苦痛を感ず
ることとなるべしと云ふ

●**布疋團を當國に合併する事に就いては數年前より**
其議を唱へる者ありしが當奉米案に氣配を高め終
に去る六月六日に至り大統帥は兩團全體委員の

●**金銀の騰出と其集放** 去る六月月中旬は前月に引
續き多少の金塊當地より歐洲に向け輸出されし
本月に入りては頗る僅小となりて現下日本歐洲
に向け輸出する船舶の出帆は益々金塊を積載する
ものなる實業者の認に據りて本年金塊の輸出は既
に其勢を告げたるならんやと云ふ

●**銀行の景況** 當地銀行は前報後依々多額の新
進を採納し金融頗る活潑なり據りて於て
の當座貸付金利六月下旬より中旬に在りては
年分乃至一月五分なりしが下旬に至りて一分乃至
二分となりて本月は一分四分の一と爲りし現行貸付
金は二箇月年限二分三箇月及四箇月一分五厘
五箇月乃至七箇月一分三厘形割引歩合は六十日
乃至九十日拂は年三分乃至五分厘なり

●**信託證券の景況** 去る六月中には議會の債
券に對して極短期に到りたるもの以下金銀の
兌換なるに乘じ出して低利の證券を發行し之を
發售するもの多かりしが右は頗る好成績を奏し其
株相場の上面に多少の上進を來し尙又前記の如く
昨今商工業一般の景氣も亦之に應じて一
するの望を生じたるより諸株券も亦之に應じて一
體の上進せり千九百二十五兩揚四兩利附毎四各名
來國公債（舊面百兩）は六月二十五日を以て最高
價格百三十五兩八分の三に達せり

日光組行(承前)

手書は成りなれば直に... 日光組行(承前)...

其中心の人々も... 日光組行(承前)...

最つおむけに... 日光組行(承前)...

骨皮道人

骨皮道人... 乗り成ひは徒歩して...

骨皮道人... 乗り成ひは徒歩して...

骨皮道人... 乗り成ひは徒歩して...

骨皮道人

骨皮道人... 乗り成ひは徒歩して...

骨皮道人... 乗り成ひは徒歩して...

骨皮道人... 乗り成ひは徒歩して...

東京の暴風雨被害

東京の暴風雨被害... 其に有名な...

東京の暴風雨被害... 其に有名な...

東京の暴風雨被害... 其に有名な...

謝辞

謝辞... 左に列記する...

謝辞... 左に列記する...

謝辞... 左に列記する...

五二會録事

在ノカノ府水谷友恒氏より左の報道ありたり

前田氏米國に於ける詳報

水谷友恒氏

前田君若菜後箱中の読券をも見せず新着直報... 前田君若菜後箱中の読券をも見せず新着直報... 前田君若菜後箱中の読券をも見せず新着直報...

しと雖も此に此態を學ぶものならん... 貴國亦試に思へ重税の事軍費國民の不利にあらざらん... 貴國亦試に思へ重税の事軍費國民の不利にあらざらん...

冬物帽子各種新荷相揃候間不相... 變御用向被仰付度希望仕候... 尚書面ニテ御注文之節ハ、角山、中山、中折、及色...

鹿印煉齒磨ハ、良質佳味ニシテ衛生上... 最効能アリ使用後精神ノ爽快ナルハ本品ノ特色ナリ... 長瀬富郎 洋物店

ライオン 齒磨の特効... 本品は化学作用により多年實驗して好成績を得たる... 東京小間物卸商組 小林富次郎

一周年御禮廣告
 醫學大學教授 正六位 下山順一郎先生証明
 并請 大家 實 驗 贊 証 得
 衛生化粧用
 免印藥用石鹼
 近頃類似の名稱有之候に就ては、高標に注意の上、請求を乞



免印藥用石鹼
 免印藥用石鹼

製造發賣元
 本舖 鎌田善次郎

醫學士稻生梯先生新方
 取印藥用石鹼は弊店に於て昨年の六月より製煉販賣仕候際、尤該品は品質甚長にして特に皮膚の若嫩を一試し且衛生上大に有益有以て當時名譽を博し紳士貴族光臨會に賞賜爲たるを以て日増に増進仕候に早

標商錄登
 驗石らくさ
 驗石蜜蜂
 驗石蜜蜂
 驗石蜜蜂

○肌を濃にし色を白く皮膚の荒を防
 ぎ艶を出しに色を白く皮膚の荒を防
 あせも、水むし、でさの、其他皮膚病一
 切に大功あり、注意、近來類似の廉價賣買
 の者有之、之、間商標下名寫り、改訂、下度候
 辨、入、里、設、石、鹼、製、造、東、京、市、芝、罫、三、番、地、
 鈴、木、保、五、郎、本、館、東、京、市、芝、罫、三、番、地、

後后月丸
 後后月丸
 後后月丸
 後后月丸

●發賣部責任保險は無責任也
 ●發賣部責任保險は無責任也
 ●發賣部責任保險は無責任也

大愉快
 大愉快
 大愉快



價定
 價定
 價定

天狗の早わざ
 天狗の早わざ
 天狗の早わざ

大愉快
 大愉快
 大愉快

店賣販地各
 店賣販地各
 店賣販地各

花王洗粉
 花王洗粉
 花王洗粉

花王洗粉
 花王洗粉
 花王洗粉

神田橋
 神田橋
 神田橋

煉礮灰
 煉礮灰
 煉礮灰

學校用品
 學校用品
 學校用品

吾妻毒
 吾妻毒
 吾妻毒

花心入新編入兩様
 花心入新編入兩様
 花心入新編入兩様

改良髻形廣告
 改良髻形廣告
 改良髻形廣告

萩の花妻 (第一節)

一 鴉子 瑞

元弘三の年某の北條相模入道高時御倉に滅びてより...

雁酒山門に入るを許さず本家の業を承来れば花は...

の遊戯を此上な好み仕持に見られて數度も...

ふても此遊戯はやめられぬ此範圍に敵を控えて...



相懸しめらぬ弓矢

●日本銀行銀行手続

貸出目的の事

一 當銀行は日本銀行法第一條に規定ある如く農業工業の改良發達を計るを目的とする事業に對し資金を貸出するを以て當銀行より借入るべき資金は専らその目的に使用するものに限るべし

借入金の爲め借替の目的を以て借入るべき資金は、其貸出は本銀の主旨に起るものに限ることを知るべし

一 當銀行は府縣都市町村其他法律を以て組織せる公共債債に貸付る場合の外は必ず不動産を抵當を設けるものなり

一 當銀行に於て抵當として設ける不動産は永続すべし取替する収益の見込あるものにあらざれば之が確保をなすべし

一 當銀行に於て抵當として設ける不動産とは田地畑圃、農畜支店、工業用に供する不動産、建物等の種類にして左の不動産は一切抵當として貸出せざらん

一 明治十七年第七號布告地租條例第四條に該參考(地租條例第四條公立學校地租特種耕地地租、墳墓地租、用水池沼地租、開闢井溝、灌溉用地、禁伐林及公共の用に供する道路は地租を免す)

一 學校社寺病院劇場其他共同の用に供する建物及敷地

一 農工業用に及ぶ宅地建物

一 鐵道石炭油礦地租の課

一 入會地

一 數人共有の不動産

一 但し共有者(即ち法律の上其全所有權を抵當とするもの)は貸付ることあるべし

一 當銀行に於て取換ふ抵當不動産は總て第一抵當に限るべし

一 當銀行に於て建物と抵當として設ける時は其社對の對し借入りに於て確實と認むる保險會社の保險を要すべし

一 抵當物の價額を總て當銀行に於て鑑定評價したるものに據るべし

貸付金の事

一 貸付金は當銀行が抵當物に對して鑑定したる評定價格の三分の二以内にて定むべし

一 資本金の最多額は同一借主に對し當銀行拂込資本金の百分の五を超過し得ざるの規定なり(現在拂込資本金二百五十萬圓此百分の規定は二十萬五千圓なり)

一 但し府縣都市町村其他法律を以て組織せる公共債債に對しては此限にかゝることなく

一 貸付方法

一 當銀行貸付の方法に二種あり甲を年賦償還貸付と云ふ

年賦償還貸付の事

一 年賦償還貸付とは契約に依りて定めたる年限中に毎年一定の金額を當銀行に償還し所謂返済の方法なり

一 前年法なり而して毎年償還する一定の金額を年賦金と稱す

一 年賦金は其年限を毎年六月十二月の兩度に當銀行に拂込まん

一 年賦金は抵當地(平年收益額より公債額)内地に諸府市町村債等の事)を差引たる殘額に對して定むべし

年賦償還貸付の年限

一 年賦償還貸付の年限は五十一年以内にて公債の多寡及び其事業の性質に依りて適宜に定むるの規定あり

一 年賦償還貸付年限中最初の五年以内にて其年限の期間に於て適宜に抵當年限を定む其年限内は元金を償還せず利息金のみを當銀行に拂込まん

一 定期定期償還貸付の事

一 定期定期償還貸付は五年以内の年限に約定利息の利率最高歩合は當分の年賦償還貸付利率に於て充てるべし

一 一年賦償還貸付利息は毎年六月十二月の兩度に當銀行に拂込まん

一 借入請求の事

一 當銀行甲號又は乙號に準じ借入請求書第一(附記)借入請求人會社なる時は其會社の貸借對照表、營業報の類をも請求書に添へ差出らるべし

一 又借入請求書を當銀行に於て必要と認る時は左の書類を當銀行に於て通知せしむるべし

一 一抵當物に關する登記の原本(未登記のもの)は土地地籍帳(附記)の位置形狀を附記

一 一抵當物の圖面

一 一印鑑證明書

一 一印鑑の設計目録見書

萬子忠使直助傳 第十一節

新編東國通志 卷之九

朝鮮 萬子忠使直助傳

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

萬子忠使直助傳 第十一節

改良蠟引紙壽賀

は創設廿五年 紀念博覽會 有功銅牌拜受



製造本見贈水銀一箇... 製造本見贈水銀一箇... 製造本見贈水銀一箇...

改良蠟引紙壽賀本舖... 改良蠟引紙壽賀本舖... 改良蠟引紙壽賀本舖...

小間物問屋丸見屋善兵衛... 小間物問屋丸見屋善兵衛... 小間物問屋丸見屋善兵衛...



本舖製造元 森川積善堂... 本舖製造元 森川積善堂... 本舖製造元 森川積善堂...



特許人 造珊瑚珠... 特許人 造珊瑚珠... 特許人 造珊瑚珠...

善小間物問屋丸見屋善兵衛... 善小間物問屋丸見屋善兵衛... 善小間物問屋丸見屋善兵衛...



貴麗紳士の香料... 貴麗紳士の香料... 貴麗紳士の香料...

東京市特別大販賣所... 東京市特別大販賣所... 東京市特別大販賣所...

東京帽子製造株式會社... 東京帽子製造株式會社... 東京帽子製造株式會社...

髮掛類各種... 髮掛類各種... 髮掛類各種...



雲井石鹼... 雲井石鹼... 雲井石鹼...

帽子商店... 帽子商店... 帽子商店...

反古まゝへ

▲天保年間購書の寫し(承前)

(天保十三年八月三日)

文政以来金銀或は紙幣... 印付候處當時係字金銀

右之通銀相替相立... 係上は此上諸色直に引下

近世奇跡考(抄録) 十一年河東郡... 本姓は伊藤、十一年河東郡

右之通銀相替相立... 係上は此上諸色直に引下

右之通銀相替相立... 係上は此上諸色直に引下

右之通銀相替相立... 係上は此上諸色直に引下

運年銀相替相立... 諸色直に相替さ下々難儀

右之通銀相替相立... 係上は此上諸色直に引下

近世奇跡考(抄録) 十一年河東郡... 本姓は伊藤、十一年河東郡

右之通銀相替相立... 係上は此上諸色直に引下

右之通銀相替相立... 係上は此上諸色直に引下

右之通銀相替相立... 係上は此上諸色直に引下

右之通銀相替相立... 係上は此上諸色直に引下

Advertisement for 'Asahi' (朝日) flour. Includes text: '本品の製法 弊廠製する無鉛白粉...', '本品の効能 此は川粉のびよくして...', '本品の香料 純良トハエラレット油...', '製造發賣本舖 東京市東區西馬場二丁目', '大相屋小兵衛 丸見屋善兵衛 九兒屋若門衛 賣藥卸賣店 大坂東區南區南船場'.

保險附麝香水
新製雲南麝香
吸簿荷パイプ



謝辭
拜啓巡回中ハ不方御高麗ナ蒙リ殊ニ本品販路ニ付テハ非常之御靈力被成下奉賜謝候一々謝狀呈上可申寄ナ
ルモ多敷之御得意様ニ付テハ失敬紙上ヲ以テ御禮申上候
旨以而店務之都合ニ依リ退任候間上々御禮申上候
共次回ニハ是非御伺上候ニ付不勝引奉希上候

關西御得意様

水晶のり
高華化粧

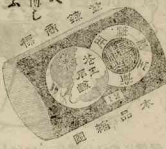


東京橋山下町一寄地

花王石鹸

花王石鹸ハ品質最モ美良にして特に皮膚の美觀に特ニ且面生土上に効効ある貴くも

官内省陸海軍
帝國醫科大學



近來製製品に類似の外装を附し販賣する者有之に付本品の正副付録高麗紙及ハ商標部名義に御注意の上御取次度候

買所ハ全國至る處あり

製造發賣本舖 東京馬喰町三丁目 電話花丸二二三

長瀬富耶

毛のはへる香油

一名ハ美人かつら
小瓶大瓶
大瓶金三十錢
小瓶金十錢
同特別大金銀

イナに遠に
此美人
毛のはへる香油
は極上植物油をこなす
清らかなる髪をよ
し毛をよす功効能を加へ
るものとす
用にもして男女常に化粧に
けるれば髪をそよし髪を
け落はげれる事なくし
れいなくよけやせき毛
殊にして髪に最も適當
本舖
東京馬喰町一丁目
佐々木支店
大阪橋下四丁目
本舖
東京日本橋區西馬路
支店
大阪日本橋區大馬路

萬朝報

本舖 東京日本橋區西馬路

並木長次郎

御得意様へ御見舞
暴風水の際御留意各位御邸宅其他
別段御障り無御座候候哉一々御伺
可申上管之趣何分數月の御得意様
に付屆き其候間甚大年時義當紙
上を以て御見舞奉申上候敬白

ねがはらする盆田第一堂

支店 東京日本橋區大馬路

精製純良の花丸

定價

- 一袋八十三錢
- 四袋八十錢
- 十袋八十錢
- 廿袋八十錢

五のつやハ船毛をよす事始なり
五のつやハ船毛をよす事始なり
五のつやハ船毛をよす事始なり
五のつやハ船毛をよす事始なり
五のつやハ船毛をよす事始なり

本舖 東京日本橋區西馬路
支店 東京日本橋區西馬路

並木長次郎

電話花丸二二三

禁轉載

此項是角... 轉載... 禁轉載

△向表の類... 花物... 紋付... 花扇... すかし物の類

△島田かじ類... 内配打... 雑物... 段物

△アルム金かん... 菊... 牡丹... 紅葉... 花冠... 袴

△金銀類... 金銀細工... 紙幣... 吉原塗

△モル細工... 銀細工... 九龍稚兒... ゴム文字

△天鵝の類... 角足... 鹿足... 鹿鹿足

△鹿鹿の類... 鹿鹿足... 鹿鹿足... 鹿鹿足

△鹿鹿の類... 鹿鹿足... 鹿鹿足... 鹿鹿足

△正誤... 前報... 鹿鹿足... 鹿鹿足

△日光紀行 (承前)... 骨皮道人... 鹿鹿足

△日光紀行 (承前)... 骨皮道人... 鹿鹿足

△日光紀行 (承前)... 骨皮道人... 鹿鹿足

△日光紀行 (承前)... 骨皮道人... 鹿鹿足

五二會録事

在カナダ高橋 知氏の通信よりして全國實業各團體中央本部より左の通報ありたり

米國及加拿侖に於ける前田君

前路餘は多米國に在るものにして多少の國家心を有するものにして有之と見ゆ前田君五君渡米の概略... 加拿大に先ん立せんとす... 米國に先ん立せんとす... 加拿大に先ん立せんとす...

致したる位にて是れ壯健國家の爲め熱心奔走の結果なりと思へば... 加拿大に先ん立せんとす... 米國に先ん立せんとす... 加拿大に先ん立せんとす...

花王石鹼 天下無比衛生的顔料優等化粧品 芳香馥郁白美艶麗頗有効靈妙奇劑 東京壯園堂齋藤泰助 製造發賣 花王石鹼水舖(九三)長瀬富郎

同夜十時半親稅大臣又等車遊見送られ前田君
 前田君多市へ歸せりと國家の爲めに苦心經營せら
 れたる中今又又進んで私財を棄捐し遠く海外に來り
 たりて計を思ふの深き實に言語に盡すべしに
 非らずと母を思ふの殊に海外に居住せる我より看
 るときは前田君の此舉方如何と深遠の利益を日本
 に興ふるやと認識するに難からず勞役に益と感服
 の念に堪へず感激のあまり高擧を願ふに違なく
 報告を爲す

明治三十年七月廿五日

●本部役員會 ●本部二十日日本橋區上野町東京
 本部事務所に於て 本會役員會を開き來三十一
 月を以て五二會本部事務會の開催に關する各計上
 の協議を以て結局本會事務會の開催に關する各計上
 来る廿四日市參事會に出席同會補助の申請を爲し
 更に日を期して役員會を開き詳細の協議を爲し
 事と爲其際前田君暨會友の熱誠の準備等を定めて
 告を爲す事と決した

●商人宿申會の規約修正 ●同會は此程日
 本橋區都に於て總會開き 總務の未規約并
 に本期中に修正を加へたる由を以て左の如く通報
 ありたれば其全文を掲ぐ

第一條 商人宿申會規約にして其手帳方
 第一條は東京旅人宿組合にして各地方
 以上東京する商賈買賣の商人旅客を有する者
 第二條 本會の目的は商人宿申會と稱す
 客の便利を主とし商品仕入及び買捌方に付安
 全ならしむるにあり

第三條 本會員は一定の店則を設け出入商人を
 取極し萬一違背せし者ある時は出入を差止めし
 其事務所及び住所氏名を詳細に事務所に出届べし
 し事務所に印刷に附し直に之を會員に報告す

第四條 前條の報告を受けたる本會員は其違背
 者に対し何等の事情あるも出入を差止めし
 して取り敢へず滞在客に通報の上其印刷物は帳
 場又は見届處の場所に出届べし
 第五條 各會員方にて定めたる商人團體の組合
 名簿其住所氏名商賈種類を認め備へ置き且

事務所へも限て差出し置べし
 但し特種あるときは其理由を詳細し郵便葉
 書にて送ら出申す
 第六條 本會に幹事三名を置き總ての事務を取
 扱其費用は實費を會員一同にて分擔するもの
 第七條 本會幹事は投票を以て之を定む任期以
 一十年を以てす

第八條 此規約を加除改正せんとする時は總會
 を開き會員半数以上出席其過半数の同意を
 以て決定す
 第九條 此規約は各出入商人取極の爲り取付け
 るものなれば深き所轄管署へ置届くべし
 故に若し會員中に此規約に違背したるもの
 の時本會員より除名の土其氏名を警察署へ
 届出べし

右各條會員一同協議確定の上之に記名捺印俟也
 (會員連名を以てす)

●商人宿申會店則
 一 出入の各商人は滞在の旅客へ面會を求むること
 別を以てす
 一 其店主は客人にと拘らず並後其店名の
 別を以てす
 一 但し夜間は提灯を携入るも差支なしと雖も
 一 名刺を持参せざる者は取次を謝絶すること
 一 下駄等々は各自に於て注意を加ふべし萬一紛
 失又は損傷ある時は其店に其責を負はす
 一 各商人の出入時間には左の如し
 午前七時より午後九時入居

一 概橋區内時々の氏名を申入店主の承諾を得て
 各客室に在り
 一 旅客の滞在前又は後館中に客室に居り可から
 ず且旅客の承諾を得ずして獨りに室内に入る
 可からず

一 左に列記せる諸項を犯すべからず
 一 客室に於ては陶器の外空器に時間を消費し
 一 旅客の妨害をなすべからず
 一 旅客他出中の空室に入居すべからず
 一 旅客の内外に於て放屁吹煙塵に汚染すべか
 らず
 一 旅客の需めたりと賭博は勿論禁じ類似の
 賭をなすべからず
 一 旅客の需めたりと遊里に同行且誘引すべ
 からず

一 旅客の承諾なきに物品又は見本品等を室内
 に差置くべからず
 一 旅客に迫り強賣をなすべからず
 一 此店則を犯したるものは出入を差止め會員旅
 店一般へ通知し且店內へ其氏名を特警告示すべ
 し
 明治三十年九月 商人宿申會

改良蠟引紙壽賀本舖
 創設二十五周年纪念
 博覽會有功賞銅牌



改良蠟引紙壽賀本舖
 東京橋町四丁目
 電話長花
 四四八番

諸品精々
 金銀洋白簪
 髮飾附屬品
 新問屋

改良蠟引紙壽賀本舖
 諸品精々
 金銀洋白簪
 髮飾附屬品
 新問屋

改良蠟引紙壽賀本舖
 諸品精々
 金銀洋白簪
 髮飾附屬品
 新問屋

改良蠟引紙壽賀本舖
 諸品精々
 金銀洋白簪
 髮飾附屬品
 新問屋

改良蠟引紙壽賀本舖
 諸品精々
 金銀洋白簪
 髮飾附屬品
 新問屋

改良蠟引紙壽賀本舖
 諸品精々
 金銀洋白簪
 髮飾附屬品
 新問屋

改良蠟引紙壽賀本舖
 諸品精々
 金銀洋白簪
 髮飾附屬品
 新問屋

丸善商店發賣品廣告
 婦人小間物
 御櫛笄簪類各種
 雲井織一改良鹿の子
 改良蠟引紙壽賀本舖
 諸品精々
 金銀洋白簪
 髮飾附屬品
 新問屋

丸善商店發賣品廣告
 婦人小間物
 御櫛笄簪類各種
 雲井織一改良鹿の子
 改良蠟引紙壽賀本舖
 諸品精々
 金銀洋白簪
 髮飾附屬品
 新問屋

丸善商店發賣品廣告
 婦人小間物
 御櫛笄簪類各種
 雲井織一改良鹿の子
 改良蠟引紙壽賀本舖
 諸品精々
 金銀洋白簪
 髮飾附屬品
 新問屋

丸善商店發賣品廣告
 婦人小間物
 御櫛笄簪類各種
 雲井織一改良鹿の子
 改良蠟引紙壽賀本舖
 諸品精々
 金銀洋白簪
 髮飾附屬品
 新問屋

丸善商店發賣品廣告
 婦人小間物
 御櫛笄簪類各種
 雲井織一改良鹿の子
 改良蠟引紙壽賀本舖
 諸品精々
 金銀洋白簪
 髮飾附屬品
 新問屋

丸善商店發賣品廣告
 婦人小間物
 御櫛笄簪類各種
 雲井織一改良鹿の子
 改良蠟引紙壽賀本舖
 諸品精々
 金銀洋白簪
 髮飾附屬品
 新問屋

丸善商店發賣品廣告
 婦人小間物
 御櫛笄簪類各種
 雲井織一改良鹿の子
 改良蠟引紙壽賀本舖
 諸品精々
 金銀洋白簪
 髮飾附屬品
 新問屋

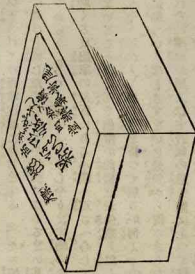
丸善商店發賣品廣告
 婦人小間物
 御櫛笄簪類各種
 雲井織一改良鹿の子
 改良蠟引紙壽賀本舖
 諸品精々
 金銀洋白簪
 髮飾附屬品
 新問屋

丸善商店發賣品廣告
 婦人小間物
 御櫛笄簪類各種
 雲井織一改良鹿の子
 改良蠟引紙壽賀本舖
 諸品精々
 金銀洋白簪
 髮飾附屬品
 新問屋

丸善商店發賣品廣告
 婦人小間物
 御櫛笄簪類各種
 雲井織一改良鹿の子
 改良蠟引紙壽賀本舖
 諸品精々
 金銀洋白簪
 髮飾附屬品
 新問屋

丸善商店發賣品廣告
 婦人小間物
 御櫛笄簪類各種
 雲井織一改良鹿の子
 改良蠟引紙壽賀本舖
 諸品精々
 金銀洋白簪
 髮飾附屬品
 新問屋

鹿 鹿 鹿 鹿 鹿



定價
紙箱付 金拾五錢

今同左ニア處へ轉
居任來廿七日ヨリ
石鹼及化粧品 始仰商開



ライオン 齒磨の 特効

本品は化學作用により多年實驗して好成績を得たるに依り一層原料の良質を選擇して精製したるものなれば従來世に行はる普通齒磨と其質を異にして香潔都として口中の汚物と臭氣を去り齒質を雪白完全な**世界無比**にして且隨處に常らして用ひて口一切の病を思ふふ無きと疑ふなれば本品の特効なり江湖の諸君を請ふ試用の上で高評あらんと乞

東京特約店 **小林富次郎**
電話 花丸四九八番
東京市神田區原厚原川岸二二號地
東京特約店 **中村商店**
支店 野田
橫濱特約販賣 市常盤町二丁目
特約店 東京小間物卸商組合各店

○賣捌所は全國到所ノ小間物店ニアラ

此類の品に依る此類の品は世間の石鹼亦多かるの比にあらざる多かるの比に依り一層原料の良質を選擇して精製したるものなれば従來世に行はる普通齒磨と其質を異にして香潔都として口中の汚物と臭氣を去り齒質を雪白完全な世界無比にして且隨處に常らして用ひて口一切の病を思ふふ無きと疑ふなれば本品の特効なり江湖の諸君を請ふ試用の上で高評あらんと乞

定價
小袋六十入 金拾五錢
大袋一箱 金拾五錢
紙包 金五錢

効能用法
本能書ニ委

花王洗粉

製造元 **大野金城堂**

定價 罐入四錢 袋入壹錢

東京市神田區原厚原川岸二二號地

發明製造元 請認明商標
後通五六番地町

發賣代理店 東京市常盤町
町常盤町一丁目

關西代理店 京都府高倉西丁
後通久寶寺町

約販大 東京市山一丁目
町常盤町一丁目
町常盤町一丁目
町常盤町一丁目
町常盤町一丁目
町常盤町一丁目
町常盤町一丁目

其他東京小間物卸商組合社
關西關西地方代理店ノ特約店(御中)下野常盤町引仕

本口印の特色

製造元 **森川積善堂**

發賣元 **丸見屋善兵衛**

東京市山一丁目
町常盤町一丁目
町常盤町一丁目
町常盤町一丁目
町常盤町一丁目
町常盤町一丁目
町常盤町一丁目

秋の花妻 (第二回)

折切骨の腕子を押つけ出したる住持の僧「又岩... されど極付られて首を以て頭を押しへて面影し... 一々愚作では修坐りませぬなる桶淵殿が修儀の... 通り那の弓で空飛ぶ鳥を射落して血痕に... 汚したる故意見を致して居ります所憑信ど聞... 意以下したる近道道程に存じます 萬千ニ桶... 淵が養生を致したるは是なりや桶淵ではあるさい其... 方ありらう 昔々 誠相不事仰しやります物の命... を助くるは出家の役所にある小僧一正さへ心して... 踏まひたこと望りぬ愚作は此様又養生犯し... せしやうそれ」那の弓を待つて居る何れよりの... 証據取らういふ事をさすさいと最前から語りました... 女れと桶淵殿が聞かれず若家の過失を問はつて飛... んどか眼支那の小鳥には愚作が三脚戒を授け... て置きましたら追付け成佛致しせしやう此度の... 所は何分も修了なされて下さりませと追がに... 桶淵を不徳と思へば叱らせまじと手をすりて桶に... 縁に押ける。住僧忍ば若き切り 真此度く... もせつ問合した全た桶淵が造つた罪なら最早其... 徳には於置かれぬ云ひ云ひ桶淵の方に何ひ「コ... リヤ桶淵全く其方の仕業に違ひないや問ども桶... 淵は答へせず半信半疑に持つたる愚問しりませぬ... 願の太さに寂忍しく気色を替え 真何故其方は... 返事致さないか事があるはへし 此際桶淵は... 漸々や願師ハイと返事をせしひにて願に來る... るべくも見す 真ハテ出の申すに何を愚問く... と驚り親とに股付くる桶淵も今は櫻袴を定め半... 弓解伏せば寂忍をたら打見通し 寄り顔も得上げ... は思か何故了願直らぬのじや此寺の門の碑文... を見よ請に申すなればへ山門の内に入るを許さ... ず拙てや養生の罪を犯すもの一足此門を入ぬ從... 其位の事心得ぬ所方もあるまい何故不所存を働

らいたし細に依てハ修儀命付ねば相成らぬや... と云ふも桶淵は少しも動せず 眞修儀に負さ... 不徳を働きましたる段何れも申請は修坐りませぬ... 左りながら心なくては致しませぬ仔細話せどわか... 管氏養貞の 脚不和合となり中國に於て働を削... 此九州の地も何となく弱きがし朝池天友等の家... 狭互に隙を覗ひ合ひて何時なきさ合戦を起し... 此廣やかなる九州の地を修羅の荒とせよんぞ知



内海切

言葉も包まず申上するが私は生れ得下如何な... 宿世の因果にや幾文讀むが心に染ず可に失つが... へて的を射り太刀打物の能く様覺え度き身の願... 此ら、世の中の有様を見るに今京都に於ては... 且思ひ立ちましたる心を諷かへす事はなりませぬ

家「ロン其心ならん是非もない今日限り取返す... 程に何れへなりと立越へよ素より此は養生禁願... の道場少しの汚れなき願への其方如き不所存... 犯す事にて等には何れなき月矢の修儀養生の事... 犯す事にては願主小僧殿へ聞てても心苦しく修... 谷のの覆るは必定今宵の内に支度し願の明日は... 早く立去る」師の言がね不所存は當等に於... ても用はない養育の思はず程なりと知るならば... 乞ひして出て行けど云餘つて障子レウヤリ奥の... 置間へど立去りし跡に岩鏡はひまづ「是は是... 桶淵殿何うしたるのぞ聞けば此方は親なし此寺... を出されたりや何んぞ難儀をせうも知れぬ其様に... 情願をいはいは愚僧が説をしてやる程に一緒に修... 坐れと手を探れば桶淵は其手を振り擲ひ 桶岩鏡... 殿修坊の親切は歪げないが結句是が私の望み難儀... 故を玉にして聞けば難儀するのが一ツの修行なり... や身支度しして附け難儀するの喧打ら擲ふて居間... に入りゆらゝ食事をしたる後夜に入りて住持... の居間へ登るハ障子出さうやし手を支へ... 左れば仰せに後日明日は早分出立致しませ長年の... 間修丹精養けたる修思修願は言葉に盡されませぬ... 雖て本意を達せたる後夜ためて修儀の門を出でま... する先づ去らばは堅固に道がに頭も上げ得ま... するに住僧は四方廻りに何思ひん坐を起て桶淵... を上坐に押前らぬか以下つて鞭を止し 勿体な... 日和子桶長年の修儀愚僧こそ事此れを申上げ... ます思へば一日昔しい世の中で修坐りませぬの... のみならず袈衣の袖に押へつ顔も得上げぬ此境... の体たたく思ひもかけぬ事なれば追がの桶淵も呆... るばかり

正誤

前回秋が花妻の下第一席であるは第一回の観植に... 付らば正誤す

條約實施と實業界

條約實施準備委員中有力なる氏或は諸君に關て曰く條約改正の體裁も亦一成功に近づき現に發する所は條約日漢條約の總論政府に終結せんとす即ち此等新條約の實施は期して明治卅二年七月に在り思ふに

條約改正の精神 尤も我法權を回復し及び我實業界の圓滿を計るに在るや論なし其は多ク無形空裏のものにして更に切實の利害關係を有するものは社會のナリヤ 即ち實業界者ならざる可らずして所謂實業の新興と表露せざるは實業界社會の決心如何に在り然らば我國の實業界は條約實施に對し如何に決心をなすたるや

發達の併行 即ちパナマを以て是も現時の實業社會に於て可らざる者と信ず而して是と所謂對條約實施の唯一最善にして此準備なくば中々に將來の成功恐東なしと思ふより發達の併行は何ぞや實業界機關各部の發達を均しして言はば手も足も應ふ我れも亦或實業上は局部と局部との發達に相互の聯絡あらむるに在り聯絡なき個々の發達は畢竟不具を成せざればならぬ

現時の實業界を 如何にと視るに各人多くは實私利に汲々して濫進濫退更に邦家の前途を慮りて之に應ずるの處を離せず 隨て各部機關の發達の併行などに於て之を思及せざる者有様なり 斯くては條約實施の理想の實現の期し難きのみか却て反對の結果あるべきは必然なりとも怖かしし

を速く北海道に開き更に之が栽培種植に心をを用ひず工場も資本も探採して微力者公に見らざるなり且外國販賣の機關として一人在外支店の存するにあらざるは海事の掛引一として思ふに可なり此の如く原料よりして製造 製造よりして販賣に於ては海運の掛引一として思ふに可なり其は實業界の發達を計るものならざるよりして予は局勢の發達を細用計するに在り 銳意奮勵各々其業とする所を改善して以て愈々事業の隆進を期すべしは勿論あれど物我國産の國人實業界に世界市場の真正中に在り行すも實業界ならざるもの

第一の準備と制限外兌換券の増減 近來金融の小康を云ふするものあれども小康を得たるは左の諸原因より出たる一時の結果に過ぎず 日本銀行は大量の進出債権を發行し其準備を其平常に復し制限外兌換券を發行する事となりし事

本銀行は其以前より準備を急ぎさしめしめ日各銀行の方針一變を見出し恐らく一時盛なりしと聞し一層警戒を嚴にせし事 一般の事業家皆機械等も漸く製造し 新事業の發達の爲め 株金等の如きも成べ 進出し 投資の手に出し大に手控ふるに至れる事

例年十月月頃は資金の需用多かりしにして本銀も亦新會社 株金のみに資金を充てしめて 改めたるに支那幣を加へたる事は昨今の小康を回復し 力ありしものにして先づ當分は過剰を不

廣 告

創設廿五年紀念博覽會
 有 功 賞 銅 牌 領受
 本甲壹壽繪彫刻捕物繪笥
 惣張臺黑唐代生地繪金地
 高評漣彫捕物繪笥中差
 推朱彫捕物繪笥兩天一貫
 新形朱推朱政子 政子鬘
 各種 柳鬘糸政子形鉞形
 上等玉入簪向差長房付簪

東京市日本橋區橋本四丁目
 小間物問屋 丸見屋善兵衛

江川商塵賣品廣告

● 隨甲珊瑚珠繪物推朱彫各種
 ● 舶來最上人造ゴム無地電甲ばら各種
 ● 舶來最上人造ゴム象牙櫛笄簪各種
 ● 舶來最上人造ゴム象牙櫛笄簪各種

發賣金 上總屋 江川金右衛門
 本舖 同如十四番地 電話掛在三百九十九
 小間物問屋 同支店

東京市日本橋區橫山町一丁目六番地

●農工銀行と政務

農工銀行設立委員の任命に關しては、地方官會議の議決を待たず、最も慎重の注意を加へ、議決を認めらるる様内調する所あり...

●肺結核の傳染

肺結核の病氣は該病者の喀痰中に存在する同患者の呼吸又は皮膚の蒸發氣等には主として其傳染の由り病氣を傳播するものがある...

●肺結核の預防

肺結核の病氣は該病者の喀痰中に存在する同患者の呼吸又は皮膚の蒸發氣等には主として其傳染の由り病氣を傳播するものがある...

●肺結核の預防

肺結核の病氣は該病者の喀痰中に存在する同患者の呼吸又は皮膚の蒸發氣等には主として其傳染の由り病氣を傳播するものがある...

肺結核の病氣は該病者の喀痰中に存在する同患者の呼吸又は皮膚の蒸發氣等には主として其傳染の由り病氣を傳播するものがある...

肺結核の病氣は該病者の喀痰中に存在する同患者の呼吸又は皮膚の蒸發氣等には主として其傳染の由り病氣を傳播するものがある...

肺結核の病氣は該病者の喀痰中に存在する同患者の呼吸又は皮膚の蒸發氣等には主として其傳染の由り病氣を傳播するものがある...

肺結核の病氣は該病者の喀痰中に存在する同患者の呼吸又は皮膚の蒸發氣等には主として其傳染の由り病氣を傳播するものがある...

祖元 此元祖小町水品にして其功其能の化研著大なる十有餘年 岳陽堂平尾贊平製

品質純良にして價格低廉 此元祖小町水品にして其功其能の化研著大なる十有餘年

品質純良にして價格低廉 此元祖小町水品にして其功其能の化研著大なる十有餘年

品質純良にして價格低廉 此元祖小町水品にして其功其能の化研著大なる十有餘年

御禮 今般發賣の廣告中は種分御厚一同を蒙り千萬金御禮申入候に御座候...

品質改良廣告 改良の良証 品質改良廣告

品質改良廣告 改良の良証 品質改良廣告

品質改良廣告 改良の良証 品質改良廣告

餘興

狂歌

淨はりの月夜更ぬと夜復更ぬ
肩腰の癢はたのりかかの四角こほろぎ
尾腰の癢はたのりかかの四角こほろぎ

心地よく流びかけて暮らすし
鹿鹿は鹿より淋し水の月
山寺に古き音もして茶立過

○東京新聞明治三十六俳仙

我がけの淋しは秋の蟻
我がけの淋しは秋の蟻
我がけの淋しは秋の蟻

夜露度金羅
夜露度金羅
夜露度金羅

別製燭心入
千代田形
歌舞伎形
名譽橋形

大販賣
天野源七
東京小問物卸商各店にあり

流行鬚形廣告
類種
大。大。極
中。中。形
薄。薄。形

内職廣告
化粧品
西森骨皮
イリス粉石鹼發賣廣告

社會の進歩と共に新形流行品を製專專
玉親孫勉
保良精品物
擊學手提煙入
擊劍道器具類

意匠 漸新



此玉手箱石印之精緻發賣の男女白色刷毛
 幼無事なる幼少婦人等五打の品有
 箱中に打込有之使用の節石印を以て石
 印を以て自筆奉納を受けし云ふ最も意匠
 麗なる古今未有の品にして品質價格共に
 横山日本橋區
 東京小問物卸商組合中

發賣元 發賣店

東京小問物卸商組合中



鹿印煉齒磨

良質佳味ニシテ衛生上
 最効能アリ使用後精神ノ
 爽快ナルハ本品ノ特色ナリ
 東京馬場町三丁目電話浪花九三三
 東宮馬場町三丁目電話浪花九三三



發賣元

花王石鹼本舖

長瀬富郎

發賣元

發賣店

元

祖

たかい花洋西



價格低廉賣方最多數ナルハ乙女肌也

● 全國無限ノ和洋小問物賣店ニ販賣致候

關西代理店 大阪池田 藤田盛眞堂

の直上仕候間何卒御聞濟被成下度併て奉願候也頓首

候間無據來る十一月一日ヨリ五分以上一割以下

上申出べく心得之處其内には下落致す哉

も難斗存じ見合居候處其後追々騰貴致候

て如何とも方法無之此際品質を落すも不本意

原料非常に騰貴 致候故既に御直

候間不相變御愛 願御引立被成下

度偏に奉願候也 猶同品昨冬以來

約締結致置候得バ決て昨冬の如き不問

に合等の患無之 以諸國注文一時に相成且原料切迫之爲め御販賣の

御間も欠き一慮幾重にも御託申上候本年は右

等の弊害無之様豫め原料製産地と直接特

宮中御用海外輸出之鼻祖



水製煉製 大瓶一打十五錢 中瓶一打十錢 小瓶一打五錢



奏効峻烈新輸入化粧劑



製造發賣元 東京山崎町三丁目 藤田盛眞堂

毎月五十五日廿五廿三回發行部會費銀五厘一 印 西 武 功